



C2022-03 賛美の力

[今月の聖書]

ヤコブ 5:13-15

5:13 あなたがたの中に、苦しんでいる者があるか。その人は、祈るがよい。喜んでいいる者があるか。その人は、さんびするがよい。
5:14 あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリブ油を注いで祈ってもらがよい。5:15 信仰による祈は、病んでいる人を救い、そして、主はその人を立ちあがらせて下さる。かつ、その人が罪を犯していたなら、それもゆるされる。

第一テサロニケ 5:16-18

5:16 いつも喜んでいなさい。5:17 絶えず祈りなさい。5:18 すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである。

エペソ 5:18-19

5:18 酒に酔ってはいけない。それは乱行のもとである。むしろ御霊に満たされて、5:19 詩とさんびと霊の歌とをもって語り合い、主にむかって心からさんびの歌をうたいなさい。

詩篇 107:21-22

107:21 どうか、彼らが主のいつくしみと、人の子らになされたくすしみわざとのために、主に感謝するように。107:22 彼らが感謝のいけにえをささげ、喜びの歌をもって、そのみわざを言いあらわすように。

ルカ 1:63-64

1:63 ザカリヤは書板を持ってこさせて、それに「その名はヨハネ」と書いたので、みんなの者は不思議に思った。1:64 すると、立ちどころにザカリヤの口が開けて舌がゆるみ、語り出して神をほめたたえた。

歴代下 20:21-22

20:21 彼はまた民と相談して人々を任命し、聖なる飾りを着けて軍勢の前に進ませ、主に向かって歌をうたい、かつさんびさせ、「主に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない」と言わせた。20:22 そして彼らが歌をうたい、さんびし始めた時、主は伏兵を設け、かのユダに攻めてきたアンモン、モアブ、セイル山の人々に向かわせられたので、彼らは打ち敗られた。

使徒 16:25-26

16:25 真夜中ごろ、パウロとシラスとは、神に祈り、さんびを歌いつづけたが、囚人たちは耳をすまして聞きいつていた。16:26 ところが突然、大地震が起って、獄の土台が揺れ動き、戸は全部たちまち開いて、みんなの者の鎖が解けてしまった。

イザヤ 52:12

あなたがたは急いで出るに及ばない、また、とんで行くにも及ばない。主はあなたがたの前に行き、イスラエルの神はあなたがたのしんがりとなられるからだ。

ヨシュア 6:15, 20

6:15 七日目には、夜明けに、早く起き、同じようにして、町を七度めぐった。町を七度めぐったのはこの日だけであった。6:20 そこで民は呼ばわり、祭司たちはラッパを吹き鳴らした。民はラッパの音を聞くと同時に、みな大声をあげて呼ばわったので、石がきはくずれ落ちた。そこで民はみな、すぐに上って町にはいり、町を攻め取った。

お元気でお過ごしでしょうか。今月は「賛美の力」と題して力の秘訣をお伝えしたいと思います。CFIのメッセージは昨年満30周年を迎えました。1月の「祝福の秘訣」、2月の「祈りの秘訣」に続いて「賛美の力」は大事な秘訣シリーズで、この救いと励ましのメッセージシリーズの土台となったものです。

多くの信者の中に、忠実に熱心に祈っても祈っても答えが見えず、心が暗闇の中に放置されたように感じる方があります。感謝と賛美を捧げたいけれども、到底そういう状態ではないと言う人があるでしょう。しかし感謝と賛美は、暗闇の中で、事態が好転しない時にこそ捧げるべき「秘密の武器」なのです。今日のテキストにおいて、ヨシャパテ王は、敵に包囲された真っ只中で神を賛美しました。エリコの強大な城壁の前でたじろいでいたイスラエルの人々は、ヨシュアの言葉に従って神を賛美した時、その城壁は崩れ去りました。迫害を受け、ピリピの牢獄の中で、全身の打たれた傷の痛みをこらえながら真夜中ごろ賛美していたパウロとシラスは、地震によって牢獄の扉が開き、結果的に牢獄の看守が救われ、一族が洗礼を受けるという奇跡を見ました。祈りは願い求めることですが、賛美はそれを受け取ることです。

もしあなたが今多くの問題や課題のために心が重くなっているとすれば、祈りとともに、感謝と賛美を先取りして捧げることです。雲は切れて太陽の光が差し込んできます。「賛美は事態を変える」という真理を見いだすでしょう。私の55年の信仰生涯は「賛美の勝利」を見出したことによって力強く歩むことができました。あなたにもその祝福が豊かに与えられますようにお祈りしています。

(お知らせ)

3月の水曜礼拝も休会といたします。一刻も早く再開出来ますようにお祈り下さい。

証し

賛美の喜び

小田彰のゴスペル・トーク

一九八九年十月五日発行



いのちのこぼれ社

★賛美は力

賛美、特に聖歌を歌う喜びを体験したことは、私の人生において最高の幸せです。聖歌は、罪の淵に陥っていた者が十字架の贖いによって引き上げられた時に、はじめてあふれ出てくる賛歌です。だから新生の体験が明確でなければ味わい得ない世界であると思います。

聖歌は過去の霊的体験を、歌うごとに想起させ、今の体験として信者を日々刷新する力があります。そればかりではなく個人の霊的体験を、聞く者、共に歌う者に分与する力を持っています。弱った者には力を与え、悲しむ者を慰め、喜ぶ者を証しの器として整えるのです。

日々の信仰の歩みにおいて、みことばがパンであるとするれば、聖歌は飲み物の役割を果たすと云ってよいでしょう。つい、平板で、濁ってしまいがちな霊的生活に潤いを与えてくれるのです。

日本福音連盟発行の「聖歌」の序文中に中田羽後師が次のように語っておられます。「……これらは英米におこった数々の宗教運動を推進するのに力のあつた歌であり、日本においても、無数の、今は天に帰った福音の闘士の手握られて用いられた武器であつて、その刃はこぼれておらず、今もなお、その切れ味はずばらしい。」これは一九五八年初版の序文ですが、今日なお、その刃はこぼれておらず、その切れ味はずばらしいと私も思います。聖歌はクリスチャンの戦いにおける力強い武器です。

★賛美初体験

神を賛美したくても、よい歌を知らなかった私は、こぼれを捜すような思いで聖歌の頁を繰るようになりまし。直後に、武道館と後楽園球場で開かれたビリー・グ

ラハム国際大会は、私にまことの賛美の力を体験させてくれました。少々、こうした大衆伝道に対して批判的な私でしたが、一万五千人の大賛美にふれて、すっかり考えを改めさせられてしまいました。机上のペンと紙の批評などは、賛美の中にいます神のリアリティーの前には、大砲の前の石投げのようなものでした。「夕暮れには涙が宿つても、朝明けには喜びの叫びがある」(詩篇三〇・五)。まさに朝明けの叫びが与えられたのです。

おのみ神をほめまつれ

つきぬ命与えんと

ひとり子をも惜しみなく

世人のためくだしたもう

ほめよ、ほめよ、神の愛を

歌え、歌え、主のみ業を

そのみわざにあらわれし

父なる神の恵みを

私は連日声の限り歌いました。毎晩涙を流しました。今にして思うのですが、クリフ・バロウズ氏の賛美のスピリットがあれほど豊かだったからこそ、全会衆も同じように賛美に満たされたのでしよう。

★勝利の秘訣としての賛美

「彼らが喜びの声、賛美の声をあげ始めたとき、主は伏兵を設けて、ユダに攻めて来たアモン人、モアブ人、セイル山の人々を襲わせたので、彼らは打ち負かされた」(歴代誌第二、二〇章一二節)。

敵の目に、この聖歌隊の賛美はどのように映つたでしょうか。肉眼では見えない神を信仰の目をもつて見ていなければ、喜びの賛美はできません。敵は、そこに神の臨在と力とを見たのです。

当時召命を受け、将来伝道者として生きることを志していた私は、「これこそ勝利の秘訣である」と示されました。以来、私の目ざす賛美音楽は、神の臨在を招来せしめるもの、そこに主がおられると感じることができようなものです。そのような賛美こそ本物であり、それ

こそ要塞をも破壊するほどの力あるもの(Ⅱコリント一〇・四)であると思っています。

★信仰の報酬としての賛美

一九七四年からイギリスに留学している間、私の心の中には、賛美はいかにあるべきかという問いが絶えずありました。神学校の自室でルカの福音書を学んでいた時、バプテスマのヨハネの父ザカリヤの記事を通して一大発見をしました。

「すると、彼は書き板を持って来させて、『彼の名はヨハネ。』と書いたので、人々はみな驚いた。すると、たちどころに、彼の口が開け、舌は解け、ものが言えるようになった。神をほめたたえた」(一・六三、六四。傍点筆者)。

ザカリヤは祭司であり、霊的指導者でしたが、アブラハムの信仰を学んでいませんでした。年老いてなお、神が子を与えられるという約束(一・二三)を不信仰のゆえに信ぜず、その結果、ものが言えなくなるのです(一・二三)。しかし、約束が成就して男の子が生まれるまで、彼は無言の生活の中で、魂を探られ、悔い改め、次第に信仰に目覚めていったに違いありません。そしてついに男の子の名をヨハネと宣言した時、神は再び彼の唇に賛美を回復されたのです。ここに四つの動詞があります。

- ①口が「開け」
- ②舌は「解け」(協会訳「ゆるみ」)
- ③ものが「言える」ようになって(同「語り出して」)
- ④神を「ほめたたえた」

音楽はそれ自体、人の魂を楽しませ、慰め、高揚する力を持っています。しかし聖歌には、それ以上に、個人を確かな信仰体験へと導く力があると確信しています。

クリスチャンとなつても神を賛美できない人がいます。あるいはできない時があります。それは不信仰、不従の結果です。ザカリヤが本来あるべき信仰に立ち返つた時、神は彼に賛美の特権を与えられました。ここにクリスチャンの霊的变化に関する四つの段階を見ることができます。心の解放、そして、聖霊による雪解けです。